

北海道別海高等学校の行動計画(グローバル・アグリハイスクール宣言)

全国の農業高校の行動計画		学校において平成29年度に重点化する取組及び具体的方策		
「5つの基本方針」	「10の行動計画」	行動計画の中で重点化する取組	目標達成期間	具体的方策
I グローバル教育 で人材を育てる 学校	①「生徒一人一人を一層成長させる」教育を行います。	(1)資格取得やアグリマイスター顕彰制度を活用しながら達成感を感じる取組みを充実させる。	A	(1)農業技術検定の指導計画を見直し、時間を十分に確保し、農業技術検定3級75%以上、2級30%以上合格させる。 (2)学習行程を大切に、安易にやり方を指示するのではなく、試行錯誤させるきっかけと時間を十分に与えるようにする。 (3)実験実習のテキストを自作し、教員の資質向上を図るとともに地域の実態や学科の特性にあった主体的・対話的で深い学びを実践する。
		(2)プロジェクト学習の取組みを充実させ、課題解決学習の一層の強化を図る。	A	
		(3)実験実習の精選とねらいや評価を明確にし、授業レベルを向上させるとともに、生徒が自主的に学ぶ能力を育てる。	A	
II 地域社会・産業 に寄与する学校	②「世界と日本をつなぐグローバル」教育を行います。	(1)自国や地域の産業と世界がどのようにつながっているかについて学習する機会を設ける。	A	(1)地歴科との連携を強化するとともに、大学や関連企業・団体などから講師を招いて講演会を実施する。 (2)カナダへの海外視察研修をおこない、帰国後、全校での報告会を実施する。
		(2)海外視察研修を通して、国際的な視野を醸成し、日本のすばらしさを実感できる学習を推進する。	A	
III 地球環境を守り 創造する学校	③「地域農業の生産を支える」教育を行います。	(1)プロジェクト学習を強化し、地域農業の課題解決に向けた学習に取り組む。	B	(1)研究班を再編し、良質な飼料作物の生産、地域の生乳を活用した加工品の研究開発に関するプロジェクト学習を実施する。 (2)事前指導、巡回指導、事後指導を体系的に一貫した指導体制の中で実施する。
		(2)研修牧場での研修や農家委託実習を実施して、産業現場における実践力を養う。	A	
IV 地域交流の拠点 となる学校	④「地域の農業関連産業に寄与する」教育を行います。	(1)インターンシップをとおして、農業関連産業に対する理解を深める。	A	(1)地域の実態を把握する学習機会を設定し、体系的な指導を実施する。 (2)地元乳業メーカーや試験場など地域の関連施設を見学する視察研修を実施する。
		(2)酪農視察研修を実施して、先進的な技術や知識について理解を深める。	A	
		(1)植樹事業への積極的な参加を奨励する。	A	
(2)プロジェクト学習をとおして、地域の環境に関する課題解決に向けた教育を推進する。	B			
V 地域防災を推進 する学校	⑤「地球環境を守り創造する」教育を行います。	(1)異年齢交流をとおして、食農教育を推進する。	A	(1)幼稚園児とのジャガイモ栽培をとおした食育交流事業である「ふれあい農園」を実施する。
		(2)「食農」教育を推進します。	A	
	⑥「地域資源を活用する」教育を行います。	(1)地域資源を活用し、地域の自然や文化について理解を深める。	A	(1)別海町グリーンツーリズムネットワークと連携し、学習会やフットパスの整備に取り組む。
		(2)生命とのふれ合いの場(農場開放・食農教育等)を提供する。	A	
	⑦「地域交流の拠点となる」教育を行います。	(2)園芸講座を定期的に開催する。	A	(1)中学生への学校圃場の開放。 (2)JA道東あさひ女性部対象の園芸講座を実施する。
		(1)別海町酪農後継者を育てる会との連携を図る。	B	
	⑧「機関・団体と連携した」教育を行います。	(2)北海道開発局との連携を図る。	B	(1)海外視察研修、農家委託実習について、酪農後継者を育てる会と連携し、内容の充実を図る。 (2)北海道開発局と連携した、植樹活動を実施する。 (3)専門機関と共有できる課題や目標の設定を工夫する。
(3)プロジェクト学習において、専門機関との連携を図る。		B		
⑨「地域防災を推進する」教育を行います	(1)地域の自然災害や安全に関する教育を推進する。	B	(1)危機管理マニュアルの改善徹底を継続的に実施する。	